



令和3年2月22日  
佛教大学附属幼稚園



「仏教保育3月のねらい」

ちえきぼう  
智慧希望

「輝く未来へ」

園長 佐藤和順

今年度も残りわずかとなりました。三寒四温を繰り返しながら、一步一步春に近づいています。

今月の保育目標は「智慧希望(ちえきぼう) 希望をもち楽しく暮らそう」です。いつも希望を胸にもち、明るい明日の生活を目指して、よく学び、よく働き、すべての人のために楽しい社会を生み出すように努めることの大切さを感じてほしいと考えています。

「知恵」というと、文字や数字の理解などといった「知識」を思い浮かべがちですが、「智慧」とは「物事の筋道が分かり、うまく処理していける能力」のことです。2020年度より、小学校の『学習指導要領』が新しくなりました。新『学習指導要領』では、知識を学ぶだけでなく、それらをどのように活用するかを考え、「何のために勉強するのか」という意識を持つことが重要だとされています。主体的・対話的での深い学びの方法で授業が行われ、生涯、能動的に学び続けることを目指すとされています。単に知識を増やすことではなく、得た知識をいかに使うのか。まさにこれこそが「智慧」です。附属幼稚園の母体でもある佛教大学では、人間形成にとって重要なこととして「転識得智(てんじきとくち)」をあげています。「転識得智」とは、識を転じて智慧を得ることで、われわれが得てきた知識をもって、人生のさまざまな場において、今何をすべきかを判断することができ、実行してゆく力(生きる力)へと転換していくこととされています。

「智慧」を身に着けるために幼稚園では、「知恵」「知識」を得るための準備段階として心の根っこの部分を育てることに重点をおいています。しっかりとした根がなければ、その上にしっかりとした幹や枝は育ちません。花や実をつけることを急ぐのではなく、花や実をつけるための土台となる根をしっかりと育てたいと考えています。

身に着けた「智慧」を社会にいかすことができれば、「希望」となります。「智慧」を身に着け、「希望」に転じるためには、個人や園や家庭が個別に努力するのではなく、地域社会を含めた連携が必要になるでしょう。「転識得智」を実現できることこそが、子どもの輝く未来への第一歩となるのです。

コロナ禍に振り回されたこの1年間。このような状況下でも子どもたちは様々な経験を通してたくさんの成長をしました。この経験をいかして、新たなスタートを明るく笑顔で迎えらえることを強く願っています。最後になりましたが、保護者の皆さまには1年間温かく見守っていただき、園の運営にご理解ご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。この場をおかりしまして厚くお礼申し上げます。

